

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十二號

昭和十七年七月十五日(水)
海軍大臣官房

○ 辭 令

(各通) 鑛山監督局技師 宮崎 三郎

海南警備府附ヲ命ス(七三〇海軍省) 商工技手 轟 一男

海軍技術會議議員海軍大佐 山本 善雄

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス

海軍技術會議議員海軍機關大佐 田邊 保里

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(以上七三〇同)

海軍大佐 長尾 素夫(艦本監)

海軍豫備大尉 藤森 三郎(二二掃)

(各通) 海軍技師 米元 竹平(艦本監)

同 田坂 覺造(同)

同 菊地 正人(同)

第二十二號掃海艇審議委員ヲ命ス(掃海軍艦政本部)

二月十七日官房機密第二〇五〇號模寫電送裝置實驗委員ヲ命ス(七三〇同)
海軍機關大佐 石松 祐雄(技研)

○ 雜 款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣附 ヲ〇〇 ヲ壹六四
(第八艦隊司令部)

臺北郵便局經由 第二十五海軍軍用郵便所氣付
(軍事航空郵便) 七四〇

(水雷艇初雁)

普通郵便 吳郵便局氣付 七四〇 七貳壹
航空郵便 臺北郵便局經由

第二十五軍用郵便所氣付(當分ノ間)

(第三號掃海特務艇)
七四〇 七貳壹

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十二號 昭和十七年七月十五日

七五七

1657

佐世保郵便局氣付 (軍事郵便)

第四十一海軍軍用郵便所經由

司令、主計長宛ノモノハ 利 丸
機關長、軍醫長宛ノモノハ 第二利丸
(第四十四掃海隊)

静岡縣榛原郡金谷郵便局氣付

追テ當隊宛送金ノ際川崎、勝間田郵便局ヲ受取局
ニ指定スル向アルモ同局、當隊間ハ陸路約十二軒
ニシテ不便不勘ザルニ付指定受取局ハ必ズ金谷郵
便局若クハ大澤郵便局トセラレ度
(大井海軍航空隊)

臺灣高雄州 高雄海軍航空隊氣付

海軍竹中部隊司令部

(第二十三航空戰隊司令部)

海軍武久部隊

(高雄海軍航空隊本隊)

海軍龜井部隊

(第三航空隊)

佐世保郵便局經由

第四十一海軍軍用郵便所氣付

(軍艦 永興 丸)

○書類再送

當隊宛ノ郵便物ニシテ自四月二十五日至五月十日間ニ
於テ發送ノモノハ事故ノ爲不到達ニ付再送ノ事ニ取計
相成度
(第三航空隊)

○事務所設置

卷波艦裝具事務所ヲ六月三十日舞鶴海軍工廠内ニ設置
シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理

天山丸殘務整理ハ當分ノ間第二十五航空隊司令部内ニ
於テ之ヲ行フ

第一防衛班殘務整理ハ第一海軍燃料廠第一作業部内
ニ於テ之ヲ行フ

追テ郵便物發送先ハ

吳郵便局氣付 七參貳 ヲ壹四(一)内
(海軍鰐原部隊殘務整理員)

第五潜水戰隊殘務整理ハ七月十七日迄リ迄ニ於テ之ヲ行フ
丸以後佐世保潜水艦基地隊内ニ於テ之ヲ行フ

○第十一航空艦隊司令部ハ麾下航空隊ヨリ分離單獨所
在シ居リ其ノ要スル給與及其ノ他ノ經費ハ司令部附主
計科士官之ヲ掌理中ニ付關係書類ハ當司令部宛送付相

成度

(第十一航空艦隊司令部)

○事務所撤去

第十五設警隊事務所ヲ七月十日撤去セリ

追テ當隊宛郵便物發送先ハ

横須賀郵便局氣付 ッ〇〇 ッ壹四九

(第十五設警隊)

海軍公報(部内限) 第四千四百四十二號

昭和十七年七月十五日

七五九

1659

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年七月十五日(水)
海軍大臣官房

○訓示

官房機密第八八三五號

茲ニ海軍制度改正ノ大綱確立シ一部共ノ實施ヲ見ントスルニ際シ所懷ヲ述ベテ准士官以上ニ訓示ス

今ヤ未曾有ノ大戰爭勃發シ皇國ノ隆替懸リテ我海軍ノ双肩ニ在リ此ノ際荷モ戰力發揮ニ資シ或ハ又軍備充實計畫ノ遂行ニ支障ナカラシムル爲必要ナル改正ハ速ニ之ヲ實行スルノ要アリ而モ現下ノ重大時局ニ鑑ミ一時的タリト雖モ戰力低下ヲ來スガ如キ大規模ナル制度改正ノ實施ハ之ヲ慎マザルベカラズ依ツテ茲ニ制度改正ノ大綱ヲ確立シテ將來ニ對スル方針ヲ明ニスルト共ニ一部ノ緊要ナル改正ノ實施ニ着手セル次第ナリ

本制度改正ノコトタル甚ダ重大ニシテ之ガ實行亦極メテ複雑ナリ故ニ既往久シキニ亘リ熟慮精覈、慎重審議ノ後茲ニ決定セルモノナリ諸官克ク本大臣ノ意ヲ體シ一切ノ私心ヲ去リテ本務ニ精進シ愈々戰時下帝國海軍

ノ使命遂行ニ萬遺憾ナキヲ期スベク苟且ニモ今次改正ヲ以テ不徹底ナリトシ或ハ又私見ニ拘泥シ其ノ本務ヲ疎ニスルガ如キコトアルベカラズ

尙此ノ機會ニ於テ今次改正ノ根幹タル機關科將校制度及特務士官制度變更ノ趣旨ヲ述ベテ諸官ノ省察ヲ促サントス

一 機關科將校制度ニ關シ

機關科將校制度ヲ廢止シ帝國海軍武官制度ニ劃期的改正ヲ決意スルニ至リシハ潜水艦、航空隊、水上小艦艇、陸戰隊等ニ於テハ必ズシモ兵科、機關科ノ區分ヲ必要トセザルノミナラズ其ノ他ノ艦船ニ在リテモ其ノ艦内編制ニ關シ兩科ヲ區分スルハ却テ不便トスル點アリ他方兵科將校ノ科學的素養ヲ全般的ニ向上充實スルニ於テハ從來機關科將校ノ所掌トセル術科ハ之ヲ兵科將校フンテ專修セシメ其ノ所掌トスル如ク爲スコト困難ニ非ザルベキヲ以テ將來軍備充實上寧ろ機關科將校ヲ廢スルヲ適當トスルノ見解ニ出

海軍公報 (部内限) 號外

デタルモノナリ
 願ミルニ帝國海軍ニ於ケル機關ノ發達、機關術ノ進歩ハ永年機關係員連綿不斷ノ努力ニ依ルモノナル處本改正ニ依リ聊モ能率低下ヲ來シ延イテ戰闘力發揮ニ影響ヲ及ボスガ如キコトアルベカラズ機關關係ニ當ル者ハ固ヨリ一般兵科將校モ深ク思フ茲ニ致シ斯術ノ進歩發達ニ一段ノ努力ヲ傾注シ就中現機關科將校ハ既往ノ美風ヲ將來永ク保育シ機關專修將校ノ指導ニ意ヲ用ヒ以テ機關術ノ發達ニ萬遺憾ナカラシメンコトヲ要ス

二 特務士官制度ニ關シ

特務士官ノ官名ヲ變更セルハ將來特務士官ヲ將校ニ列セントスル前提ニシテ其ノ趣旨トスル所ハ軍備擴充ノ現實ニ即シテ人事行政ノ妙用ヲ圖ルノミナラズ特務士官ニ對シテハ將校トシテ一大自覺發奮ヲ促シ且教育ヲ刷新シテ其ノ質ヲ向上セシメントスルニ在リ即チ主タル目的ハ人的軍備内容ノ充實ニ在リテ單ナル待遇改善ニ非ズ
 特務士官ノ制設ケラレテ既ニ二十餘年其ノ間特務士官ノ海軍ニ貢獻セル所寔ニ大ナルモノアリ本大臣ハ右ノ大改正ヲ行ハントスルニ當リ特務士官以下深ク

前述ノ趣旨ヲ體シ益々將校タルノ見識ヲ養フト共ニ更ニ品性ノ陶冶ニ留意シ將校タルノ榮譽ヲ辱シメザランコトヲ望ムヤ切ナリ他面一般將校特ニ初級將校ハ軍備擴充上本制度ノ甚ダ必要ナル所以ヲ理解シ又年長者ノ經驗ト技能トヲ尊重シ以テ渾然融和ノ實ヲ發揮シ尙部下ノ指導ニ際シテハ「下士官トシテ武官ニ列スルハ即チ將校ニ列スルノ第一步」ナルヲ認識セシメ大ニ准士官、下士官ノ品性、技能ノ向上ニ努力セシメコトヲ望ム

惟フニ制度ハ軍備ニ適應シ戦力ノ向上ヲ主眼トシテ定メラレ之ガ活用ノ如何ハ畢竟其ノ内容タル人ニ在リ諸官ハ今日皇國百年隆昌ノ基礎ヲ固ムベキ大東亞戰爭完遂ノ大任ヲ荷フノ榮譽ト重責トニ思フ致シ且敢ヘテ此ノ時期ニ行ハルル本制度改正ノ趣旨ヲ體シ全員愈々協心戮力只管本務ニ專念精勵シ以テ匪躬ノ節ヲ完ウセンコトヲ期スベシ

昭和十七年七月十五日

海軍大臣

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十七年七月十五日(水)

○感状

馬來沖海戰參加航空部隊

昭和十六年十二月十日敵英國東洋艦隊主力ヲ馬來沖ニ捕提シテ勇猛果敢ナル攻撃ヲ加ヘ一舉ニ之ヲ殲滅シタルハ爾後ノ作戰ニ寄與スル所極メテ大ニシテ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感状ヲ授與ス

昭和十七年四月十五日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

第一 空襲部隊
第二 空襲部隊

昭和十六年十二月八日開戰劈頭呂宋島ニ於ケル敵米國航空兵力ヲ其ノ本據ニ強襲シ爾後全力ヲ盡シテ果敢ナル航空戰ヲ反覆シ旬日ニシテ克ク菲島方面所在敵航空兵力ヲ殲滅スルト共ニ終始友軍海上部隊ニ協力シテ其ノ作戰ヲ容易ナラシメタルハ武勳顯著ナリト認ム

仍テ茲ニ感状ヲ授與ス

昭和十七年五月二十七日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

橫須賀鎮守府第一特別陸戰隊

昭和十七年一月十一日帝國海軍最初ノ落下傘部隊トシテ「メナド」攻略戰ニ參加シ友軍航空部隊ノ協力ノ下ニ猛烈ナル敵ノ防禦砲火ヲ冒シ落下傘降下ヲ以テ「カス」飛行場ヲ強襲シ寡兵輕裝克ク頑敵ヲ擊破シテ神速果敢ニ所在航空基地竝ニ附近要點ヲ占領確保シテ航空部隊ノ進出ヲ速ナラシメタルハ爾後ノ作戰ニ寄與セル所至大ニシテ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感状ヲ授與ス

昭和十七年五月二十七日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

第三 航空部隊
臺南海軍航空隊

昭和十七年一月蘭印攻略作戰ヲ開始スルヤ幾多ノ困難

(部内限)

海軍公報 (部内限) 號外

ヲ克服シテ基地ヲ轉進シツツ或ハ果敢適切ナル偵察ノ
下ニ長驅敵航空兵力ヲ其ノ本據ニ衝キテ一舉ニ之ヲ擊
碎シ或ハ友軍攻路部隊又ハ攻路要地ノ上空ヲ掩護シテ
來襲スル敵機ヲ邀撃擊破スル等常ニ航空擊滅戰ノ主兵
トシテ勇戰敢闘シ隨所ニ敵航空兵力ヲ擊滅シタルハ我
ガ攻路作戰ニ寄與スル所至大ニシテ其ノ武勳顯著ナリ
ト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年五月二十七日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

入佐海軍少佐ノ指揮セル

鹿屋海軍航空隊支隊飛行機隊

昭和十七年二月四日「ジャバ」沖ニ敵海上部隊ヲ索メ
テ進撃中巡洋艦約六隻ヲ基幹トスル敵米蘭聯合艦隊ヲ
發見スルヤ熾烈ナル防禦砲火ヲ冒シ果敢適確ナル爆撃
ヲ決行シ忽ニシテ敵巡洋艦二隻ヲ擊沈シ一隻ヲ擊破シ
他ヲシテ潰亂ニ陥ラシメタルハ爾後ノ蘭印作戰ニ寄與
セル所至大ニシテ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年五月二十七日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

横須賀鎮守府第三特別陸戰隊

昭和十七年二月二十日「クーパーン」攻路戰ニ參加シ友
軍航空部隊ノ協力ノ下ニ落下傘奇襲降下ニ成功シ次デ
寡兵輕裝克ク優勢ナル頑敵ヲ牽制擊破シテ友軍部隊ノ
同飛行場占領ヲ容易ナラシメ更ニ附近要地ヲ占領確保
シ以テ航空部隊ノ進出ヲ速ナラシメタルハ爾後ノ作戰
ニ寄與セル所至大ニシテ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年五月二十七日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十三號

昭和十七年七月十六日(木)

海軍大臣官房

1664

○令 達

官房機密第八七九九號

昭和十六年官房機密第四一號中「第六通信隊及第十九航空隊」ヲ「第六潜水艦基地隊、第八十五潜水艦基地隊、第十九航空隊、第六通信隊及第八十五通信隊」ニ改ム

昭和十七年官房機密第七三六二號中「第四十三警備隊」ノ下ニ「及第八十四警備隊」ヲ加フ

昭和十七年七月十四日

海 軍 大 臣

(昭和十六年一月十七日及昭和十七年六月十五日本欄参照)

○辭 令

海軍技術會議議員海軍技師 岩田 信太郎

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

通信書記 畑 和夫

東京海軍通信隊附ヲ免シ第三通信隊附ヲ命ス

通信書記 石 介 光

第三通信隊附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命ス(以上
七五海軍省)

○雜 款

○旗艦變更

第三戰隊司令官ハ七月十四日旗艦ヲ金剛ニ變更セリ

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

隊、司令、軍醫長、主計長宛 第三壽丸

隊機關長宛 第三文丸

(第六十三驅潛隊)

海軍公報(部内限) 第四千四百四十三號 昭和十七年七月十六日

七六一

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十四號

海軍大臣官房

昭和十七年七月十七日(金)

○ 令 達

官房機密第八七九二號

本年七月十四日現在特設航空母艦艦隊ノ職員タル者ハ
特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ航空
母艦艦隊ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ
昭和十七年七月十四日
海 軍 大 臣

官房機密第八八三四號

昭和十七年官房機密第一八九九號中左ノ通改正ス
昭和十七年七月十五日
海 軍 大 臣

「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「各鎮守府司令長官」ニ改
メ「東京海軍通信隊司令」ノ下ニ「及大和田通信隊司
令」ヲ加フ
(昭和十七年二月十七日海軍公報(部内限) 本欄参照)

官房機密第八八五四號

昭和十七年度採用ノ兵科、整備科及機關科豫備學生ノ
軍事教育期間ハ之ヲ約一年ニ短縮ス
昭和十七年七月十六日
海 軍 大 臣

官房機密第八八八八號

昭和十七年勅令第三百二十三號第一項ノ規定ニ依リ海
軍法務官又ハ海軍法務官試補ノ職ニ在リタル者ヨリ本
年四月一日附任用セラレタル海軍法務科士官ノ任用官
等ニ於ケル賞役停年ニハ海軍法務官又ハ海軍法務官試
補タリシ在職期間ニシテ武官任用官等ト同官等以上ノ
在職期間ハ空期間ヲ通算スルモノトス
昭和十七年七月十六日
海 軍 大 臣

○ 辭 令

海軍公報(部内限) 第四千四百四十四號 昭和十七年七月十七日

七六三

1665

第十一航空艦隊司令部附ヲ免シ第二南遣艦隊司令部
附ヲ命ス(海軍省)

外務通譯生 小山 嵩
海軍少將 西尾 秀彦

海軍規格審議會議員ヲ命ス

集配員 長野 至

第四十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

塚本 要四郎

第四十一海軍軍用郵便所員ヲ免ス

通信書記補 甘利 茂

第四十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス

同 久保田 清一

第四十三海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上七名同)

(各通) 海軍大佐 岡田 有作(艦 本)

海軍少佐 田邊 彌八(伊二夫潜)

伊號第七十六潜水艦審議委員ヲ命ス

海軍中佐 藤 本 傳(艦 本)

(各通) 海軍少佐 中島 清次(伊二夫潜)

伊號第七十六潜水艦審議委員ヲ免ス(以上七名海軍艦政本部)

○ 雜 款

○ 旗艦變更

第一艦隊司令長官ハ七月十四日旗艦ヲ長門ニ變更セリ

○ 郵便物ニ關スル件

當隊宛郵便物等ニシテ左記上下欄宛名ヲ混同シ誤達及誤發送セララルル向キ多キニ付取扱關係者ニ注意相成度

記

當 隊 宛 名

混同誤達セララルル隊名

第十一航空戰隊司令部

第十一航空艦隊司令部

軍艦千歲司令部

第十一航空隊

(第十一航空戰隊司令部)

○ 事務開始

第四海軍軍需部文庫ハ七月一日第四海軍軍需部分室ニ於テ事務ヲ開始セリ

○ 事務所撤去

第三遣支艦隊(北支艦隊) 殘務整理事務所ヲ五月十七日撤去セリ

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十五號

海軍大臣官房

昭和十七年七月十八日(土)

○ 辭 令

氣象技師 淵 秀隆

氣象技師 草野 和夫

同 能戸 時男

同 伊藤玄一郎

同 北村 寛一

第一南遣艦隊司令部附ヲ免シ第三氣象隊附ヲ命ス

(六〇海軍省)

(各通)

農林技師 細部 弘

同 中村 武雄

南西方面艦隊セレベス民政部附ヲ命ス (六六海軍省)

海軍技術會議議員海軍大佐 三浦 速雄

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス (七五海軍省)

(各通)

企畫院屬 宇佐美英一郎

拓務屬 土川 福雄

南西方面艦隊民政部附ヲ命ス

厚生屬 小林 朔郎

南西方面艦隊ホルネオ民政部附ヲ命ス

稅關事務官補 宮野 盛

南西方面艦隊セレベス民政部附ヲ命ス (以上七五海軍省)

○ 雜 款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 ヲ壹〇五 ヲ壹五貳氣付 (第八十四警備隊)

横須賀郵便局氣付 ヲ〇〇 ヲ壹四五 (第八十五通信隊)

横須賀郵便局氣付 ヲ〇〇 ヲ壹四六 (第八十五潜水艦基地隊)

軍事航空郵便 臺北郵便局氣付 阿蘇丸

普通郵便 吳郵便局氣付 阿蘇丸 (第三砲艦隊)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十五號 昭和十七年七月十八日

七六五

1667

臺北郵便局經由

第四十一海軍軍用郵便所氣付

(軍事航空郵便)

(廣 隆 丸)

○事務所設置

鈴鹿海軍工廠(假稱)建設事務所ヲ七月十五日愛知縣寶飯郡豊川町豊川海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○學生入校期日

近ク任命豫定ノ本校高等科學生八月八日始業式ニ付其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度

(海軍軍醫學校)

1668

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年七月十八日(土)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第四四〇〇號

昭和十五年度新造雜役船ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十七年七月十七日

海 軍 大 臣

船名又ハ公稱番號	船種	所屬	定數別	製造訓令番號		竣工豫定期日	備考
				製造所	契約納入場所		
第一四三號	同	大湊海軍軍需部	定數補充	函館船渠會社	大湊工作部	六月末日	厚岸用
第一四四號	同	大湊海軍軍需部	臨時附屬	三菱江南造船所	第一工作部	昭和二十七年三月二十七日	
第一四五號	同	第二燃料廠	同	昭和十六年官房機密第四七八七號(吳)	大湊工作部	同	
第一四六號	同	第二航空廠	同	同官房機密第一一七一六號(橫須賀)	同	九月末日	
第一四七號	同	同	同	同	同	十二月末日	

海軍公報 (部内限) 號外

1669

第三海洋	海洋觀測船 (二百噸)	水路部	臨時附屬	三菱島造船所	吳工廠	昭和十七年六月十七日	
第四海洋	同	同	同	同	同	六月末日	
第四九四號	泥受 (二十坪積)	佐世保海軍港務部 (支那方面檢隊司令 部供用)		三菱江南造船所	第一工作部	四月二十四日	
第四九五號	同	同	同	同	同	同	
第四九六號	同	同	同	同	同	同	
第四九七號	水 (百噸積)	同	同	同	同	四月三十日	
第四九八號	同 (五十噸積)	同	同	同	同	六月三十日	自走
第四九九號	同	同	同	同	同	四月三十日	
第五〇〇號	飛行機運搬船 (二百噸)	第二航空廠	定數補充	大阪造船所	吳工廠	五月十四日	
第五〇一號	同	第十一航空廠	同	同	同	六月十五日	
第五〇二號	同	第二十一航空廠	同	同	同	五月末日	
第五〇三號	運貨船 (アルマ型百噸積)	舞鶴海軍港務部	同	昭和十五年官房機密第三五七九號(四)(舞鶴)			
第五〇四號	同	同	臨時附屬	昭和十六年官房機密第四七八六號(橫須賀)			
第五〇五號	內火傳馬船 (十二米)	橫須賀海軍工廠	同	同官房機密第四七八八號(佐世保)			
第五〇六號	同	佐世保海軍港務部	公稱第三〇四一 號代船(定數)	同		七月末日	
第五〇七號	同	佐世保海軍工廠	定數補充	同			

海軍公報 (部内限) 號外

第四八八號	同	(同)	第二十一航空廠	同	同官房機密第九二八七號	五	同	月	末	日
第四九四九號	同	(同)	同	同	同	同	同	同	同	同
第四九〇號	同	(同)	第十一航空廠舞鶴支廠	同	同官房機密第九二八四號	同	同	同	同	同
第四九二號	同	(同)	吳海軍工廠	公稱第二三〇八號代船(定數)	同官房機密第四七八七號	同	同	同	同	同
第四九三號	同	(同)	松島海軍航空隊	定數補充	同官房機密第四七九〇號	同	同	同	同	同
第四九五號	同	(同)	豐橋海軍航空隊	同	同官房機密第四七八六號	同	同	同	同	同
第四九四號	傳	(馬八米船)	同	同	同官房機密第四七八八號	同	同	同	同	同
第四九五號	同	(同)	新竹海軍航空隊	同	同官房機密第四七八八號	同	同	同	同	同
第四九六號	同	(同)	同	同	同	同	同	同	同	同
第四九七號	運	(運貨船)	佐世保海軍港務部	同	同	同	五	同	同	同
第四九八號	同	(同)	橫須賀海軍港務部	臨時附屬	同官房機密第四七八六號	同	同	同	同	同
第四九九號	同	(同)	廣海軍工廠	同	同官房機密第四七八七號	同	同	同	同	同
第五〇〇號	同	(同)	鎮海海軍港務部	公稱第一九一〇號代船(定數)	同官房機密第四七九一號	同	同	同	同	同
第五〇一號	同	(同)	吳海軍港務部	定數補充	同官房機密第四七八七號	同	同	同	同	同
第五〇二號	同	(同)	舞鶴海軍港務部	同	同官房機密第四七八九號	同	九	同	同	同

五

1673

第四三號	泥	受給船 (五十坪積)	舞鶴海軍港務部	定數補充	昭和十六年官房機密第四七八號 (舞鶴)	昭 和 十 八 年 三 月 末 日
第四四號	同	同 (團平型三十噸積)	佐世保海軍工廠	同	同官房機密第四七八號 (佐世保)	五 月 末 日
第四五號	糧食配給艇 (二十米)	同	橫須賀海軍軍需部	同	宇品造船所 吳工廠	六 月 末 日
第四六號	同	同	吳海軍軍需部	同	同	同
第四七號	同	同	佐世保海軍軍需部	同	同	七 月 末 日
第四八號	同	同	舞鶴海軍軍需部	同	同	同
第四九號	水	同 (百五十噸積)	舞鶴海軍港務部	同	昭和十六年官房機密第四七八號 (舞鶴)	十 二 月 末 日
第五〇號	同	同 (百噸積)	橫須賀海軍港務部	同	同官房機密第四七八號 (橫須賀)	七 月 末 日
第五一號	橋	同 (長十五米市五米)	第三燃料廠	同	同官房機密第四七八七號 (吳)	五 月 末 日
第五二號	同	同	鎮海海軍工作部	公稱第三三四二 號代船(定數)	同官房機密第四七九一號 (鎮海)	七 月 末 日
第五三號	同	同 (長十二米市四米)	松島海軍航空隊 (假稱)	定數補充	同官房機密第四七九〇號 (大湊)	九 月 末 日

○正誤
三月七日令達官房第一二三四號末尾第四九三三號ノ項中「同」ハ「同」ニシテ誤

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十六號

昭和十七年七月二十日(月)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第四四四二號

大東亞戰爭中水路部修技所規則第四條ノ規定ニ依ル修業年限ハ初等科及普通科各六月、高等科一年トス

昭和十七年七月二十日

海軍大臣

官房機密第九〇一一號

本年七月二十日現在敷設艦艇力又ハ驅逐艦矢風ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ夫々測量艦艇力又ハ特務艦艇ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十七年七月二十日

海軍大臣

官房機密第九〇二〇號

大東亞戰爭中海軍航空本部關係兵器ニ限リ兵器經理規

程第三十七條ノ規定ニ拘ラズ各海軍航空廠長協議ノ上相互ニ保管轉換スルコトヲ得

前項ニ依リ保管轉換ヲ爲シタル場合保管轉換元海軍航空廠長ハ其ノ品名數量及保管轉換先海軍航空廠名ヲ海軍航空本部長ニ通報スベシ

昭和十七年七月二十日

海軍大臣

○ 通 牒

兵備四機密第二五七號

昭和十七年七月二十日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

國民徵用令ニ依ル被徵用者ノ徵用解除ニ關スル件申進

首題ノ件海軍徵用事務規程ニ依ルノ外左記ニ依リ處理相成度

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十六號 昭和十七年七月二十日

七六七

1675

記

國民徵用令ニ依ル被徵用者(判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ヲ除ク)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノアルトキハ別紙様式ノ徵用解除調書ヲ添附シ遲滞ナク各廳所在地ヲ管轄スル地方長官ニ徵用解除ヲ請求スルモノトス此ノ場合海軍徵用事務規程ニ依ル其申又ハ報告ニ添附スベキ徵用解除調書ニハ其ノ欄外ニ

(請)ヲ記載スルコト

- 一 海陸軍ニ徵集若ハ召集(教育召集ヲ除ク)セラレ又ハ志願ニ依リ海陸軍ノ現役ニ服セシメラレタルトキ
- 二 海陸軍學生生徒(海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム)ニ採用セラレタルトキ
- 三 出頭ノ際行フ身體検査ノ結果歸郷ヲ命ゼラレタルトキ
- 四 年令六十一年以上ノモノニシテ引續キ徵用スルニ適セザルトキ
- 五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ但シ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(別紙様式添)

軍需需第二〇三號

昭和十七年七月十三日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

空氣清淨劑甲容器一部改良及空罐還納ニ

關スル件通牒

首題物品上下官蓋ノ部別紙略圖ノ通改良(開口具共)ノコトト相成候條左記ニ依リ處理相成度

記

- 一、開口具ハ一艦ニ付一〇乃至二〇個程度ヲ初度ニ供給シ爾後ハ同數ニ補充スルモノトス
- 一、「空罐ハ極力還納ノコト」ノ字句ヲ紙片ニ印刷ノ上貼付スルカ又ハ他ノ方法ニ依リ直接容器ニ明記ノコト
- 一、軍需需第九五號通牒ノ字句モ前項ニ準シ明記ノコト

(別紙一葉添)

○ 辭 令

徳久 寛

第一海軍燃料廠ニ於ケル研究業務囑託ヲ解ク(三五)

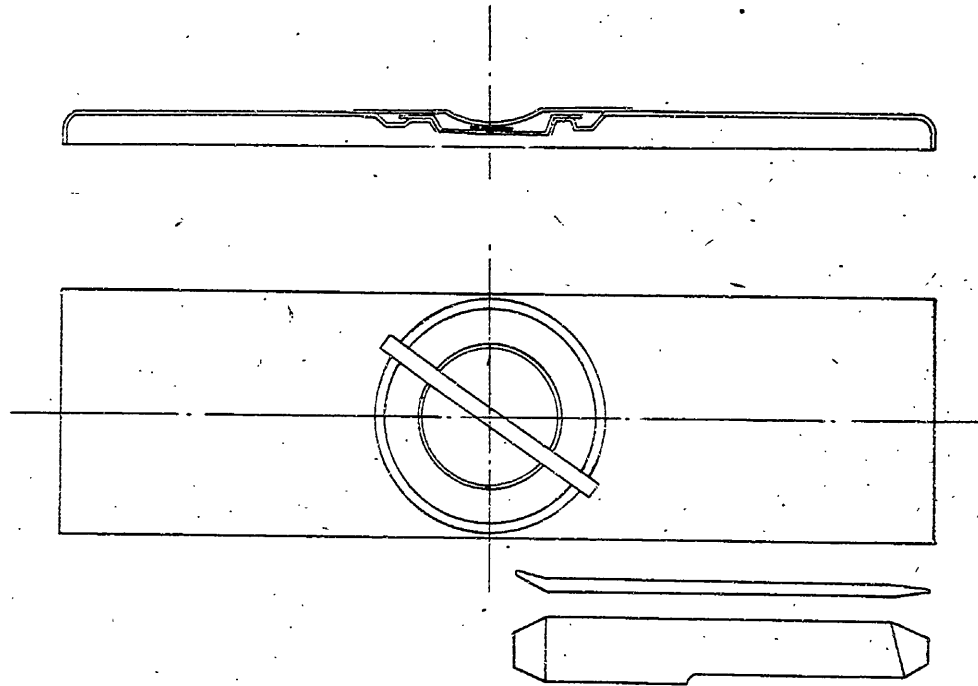
(別紙)

				徵令 發付者書用		
昭和 月	昭和 月	昭和 月	昭和 月	同上 番年 月日 號日		
至 昭和 月 日	自 昭和 月 日	至 昭和 月 日	自 昭和 月 日	徵用ノ 期間		
				總動員 業務	從 事	
				職 業	ス ル	
				名 稱	場 所	
				所 在 地		
昭和 月 日	昭和 月 日	昭和 月 日	昭和 月 日	解 除 ス ベ キ 期 日		
				解 除 ス ベ キ 事 由		
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	被 徵 用 者 氏 名 及 生 年 月 日	名 應	

(昭和十七年七月二十日海軍公報(部内限))

1677

改良型主略圖



(昭和十七年七月二十日海軍公報(部内限))

1673

海軍省)

内務技師 金森 誠之

吳海軍建築部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三十五回同)

宇田川 中

吳鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(四十四回同)

本田 敬之

第二南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(五十四回同)

濱口 廣光

吳鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(四十四回同)

遞信局書記 種田 繁邦

海軍省事務ヲ囑託ス(三十四回同)

正六位勳六等 梅津 理次

第三百三海軍建築部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(六十四回同)

伊谷 應治郎

横須賀鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(六十四回同)

柳田 直吉

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(六十四回同)

遞信局書記 東 正隆

海軍省事務囑託ヲ解ク

金光 讓太

海軍省事務ヲ囑託ス(六十四回同)

臺灣總督府農業試驗所技師 臺灣總督府技師 葛野 淺太郎

臺灣産業技師 平 塚 均

朝鮮總督府農事試驗場技師 内田 幸夫

臺灣總督府水産試驗所技師 臺灣總督府技師 関口 壽之助

拓務書記官 拔井 光三

農事試驗場技師 鮫島 清彦

農林技師 秋濱 浩三

臺灣總督府技師 小島 一政

東京帝國大學助教授 犬飼 圓積

臺灣總督府技師 東條 健二

臺灣總督府技師 武田 義夫

臺灣總督府林業試驗所技師 山田 金治

臺灣總督府技師 三浦 博亮

同 平澤 亀一郎

同 伊勢田 實

(各通) 南洋廳技師 大坪 亀太郎

農林技師 杉浦 庸一

同 近藤 鏗三郎

拓務技師 坂卷 海三郎

同 尾崎 治

臺灣總督府農業試驗所技師兼臺灣總督府技師 加茂 巖

臺灣總督府農業研究所技師 蘆澤 安平

臺灣總督府技師 馬越 頼一

臺灣總督府技師 塩 飽 茂

臺灣總督府農業研究所技師 相澤 保

拓務技師兼農林技師 中山 琢三

水産試驗場技師 山田 紀作

農林技師 武久 伊作

地方農林技師 鶴田 三郎

南洋廳水産試驗場技師 岡島 清

南洋廳水産試驗場技師 北川 英夫

臺灣總督府水産試驗場技師 安原 良男

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス 正四位勳四等 丸川 久俊

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス 從四位勳四等 山本 祥吉

正五位 上野 省三

竹村 義雄

正七位 佐久間 建次

從七位勳七等 渡邊 東雄

芝 沼 靖

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス 陸軍少尉 今見 昇

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス 大岩 勇

第二南遣艦隊事務囑託ヲ解キ南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス 陸軍少尉 永瀧 正敏

同 岡田 明英

(各通) 南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

(各通)

從七位 矢島 澄策

吉田喜久次郎

小林 治夫

多田 耕象

南西方面艦隊民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上各同)

海軍主計特務大尉 島田 順二

海軍航空本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(各同)

陸軍少尉 谷沢 喜信

海南警備府ニ於ケル業務ヲ囑託ス(各同)

支那方面艦隊事務囑託

堤 格三

自今報酬ヲ給セス(各同)

陸軍少尉 関谷 正彦

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額貳千七百七拾圓ヲ給ス

久保田 勤

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上各同)

古澤 良造

(各通)

鍋島 直高

安東 正五

三 樹 笑

南西方面艦隊ホルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(各同)

今村 義郎

第一航空艦隊齒科治療業務囑託ヲ解ク(各同)

商工技師 安田 三郎

南西方面艦隊司令部附ヲ命ス(各同)

飯野 蒙三

寺田 忠夫

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

堀 尾 亨

舞鶴鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(各) 五百圓 東京帝國大學助教授 若林 勳

(通) 四百圓 同 栗野 誠一

海軍航空技術廠ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈與ス

特許局事務官 桑田 俊夫

海軍艦政本部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

海軍公報(部内限) 第四千四百四十六號 昭和十七年七月二十日

七七二

海軍艦政本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク

河合 芳雄

南西方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

林 不二雄

但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

勳五等 藤松 正憲
福地 豊

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

上野 浩

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

堀田 至廣
山本 敏郎

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

木戸 慶藏

海南警備府ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

從三位勳二等 畑井 新喜司

海軍省南方政務部兼海軍省調査課事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

(各通)

坂口 徳藏

第二海軍燃料廠ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

正五位勳六等 内田 正次郎

第二海軍燃料廠ニ於ケル業務ヲ囑託ス

陸軍少尉 柳川 吾郎

(各通)

佐藤 甚藏
中川 信夫

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

安江 隆次
鈴木 陽太郎

海軍省事務ヲ囑託ス

陸軍少尉 吉見 巖

海軍省事務ヲ囑託シ報酬年額參千六百圓ヲ給ス

海軍豫備中尉 佐藤 清三

(各通)

竹中 清一

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

小谷 嘉香

臺灣土木技師 大坪 清喜

馬公海軍建築部土木業務ヲ囑託ス

<p>國司 照政</p> <p>海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス</p> <p>海軍豫備機關大尉 有馬 貞尙</p> <p>海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(以上三同)</p>	<p>○雜款</p>	<p>○郵便物發送先</p> <p>自今左ニ依リ發送相成度</p> <p>八月十五日頃迄ニ到達見込ノモノハ</p> <p>横須賀郵便局氣付 ヲ壹壹六 ヲ七四</p> <p>其ノ後ハ 東港航空隊殘留隊</p> <p>(東港航空隊支隊)</p> <p>横須賀郵便局氣付 ヲ五〇 ヲ八七司令部</p> <p>(第四艦隊司令部)</p> <p>八月十日頃迄ニ到達見込ノモノハ</p> <p>吳郵便局氣付(留置)</p> <p>第四艦隊司令部ニ同ジ</p> <p>(軍艦鹿島)</p> <p>吳郵便局氣付 七參貳留置</p>	<p>但シ航空郵便ハ臺北郵便局氣付</p> <p>(特務艦筑紫)</p> <p>(第一測量隊)</p> <p>佐世保港務部經由</p> <p>第四十三軍用郵便所氣付</p> <p>ヲ貳壹 イ四參 イ貳八</p> <p>(第十一特別工作部マニラ分遣隊)</p> <p>同</p> <p>第四十一軍用郵便所氣付</p> <p>イ壹九 イ四參、イ貳八</p> <p>(第十一特別工作部昭南島分遣隊)</p> <p>同</p> <p>第二十五軍用郵便所氣付</p> <p>セ貳貳 イ四參 イ貳八</p> <p>(第十一特別工作部バタビヤ分遣隊)</p> <p>○殘務整理</p> <p>第八砲艦隊殘務整理事務所ヲ七月二十日海軍工機學校内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>○正誤</p> <p>七月十五日辭令欄中「菊地」ハ「菊池」ノ誤</p>
--	------------	---	--

海軍公報(部内限)第四千四百四十六號 昭和十七年七月二十日

七七三

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十七號

昭和十七年七月二十一日(火)
海軍大臣官房

○ 通 牒

恩第一七五號

昭和十七年七月二十一日

海軍省 人事局長

關係廳長殿

從軍加算ニ關スル件照會

内戦部隊ニ勤務スル文官(鎮守府及警備府司令部勤務ノ者ヲ除ク)ニシテ本年官房第二三七九號第三號イノ(二)ニ依リ加算セラルヘキモノニ付テハ別ニ詮議ノ上決定セラルル趣旨ニ有之候ニ付左記様式ニ依リ勤務調書ニ通送付相成度

記

勤務調書	所轄長團
職官級俸氏名	
着任年月日	

勤務配置

自昭和十七年三月八日
至同年七月三十一日
勤務狀況

(備考) 勤務狀況ハ具體的ニ詳記ノコト

○ 辭 令

海軍大尉 高橋 重夫

高等軍法會議判士ヲ免ス
東京軍法會議判士ヲ免ス(特命海軍省)

海軍軍醫中佐 加藤 靜市

同 門倉 桃太郎

海軍軍醫少佐 北村 末藏

海軍軍醫大尉 東間 重倫

同 權藤 祐一

同 永島 要

(各通)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十七號 昭和十七年七月二十一日

七七五

1684

同 菊池 一郎
同 辻 達彦

昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ命ス(十七日同)

海軍大佐 三浦 速雄

海軍武功調査委員ヲ命ス

海軍規格審議會議員ヲ命ス

軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス(十七日同)

軍令部勤務兼海軍大佐 佐藤 光造

主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(軍令部總長)

海軍技手 大野 董

第一課勤務ヲ命ス

同 小林 久幸

第二課勤務ヲ命ス(以上海軍氣象部)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十八號

昭和十七年七月二十二日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第九一二五號

海軍航空部隊(練習航空隊ヲ除ク)ノ基地移動ニ伴ヒ必要トスル航本系基地兵器竝ニ整備兵器ノ準備供給ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年七月二十二日

海 軍 大 臣

一 準備スベキ場所

海軍航空廠(特設海軍航空廠ヲ含ム)同支廠、同分工場、同補給工場

一 準備スベキ兵器

各種自動車、各種運搬車、各種繫止(留)裝置、各種要具、消火器、野外天幕、移動格納庫、空氣壓搾機、ガス充填裝置、移動輕便發電裝置、各種履、特用輕便修理機械、其ノ他必要ト認ルモノ
一 前項兵器ハ在庫ノ儘使用期間移動部隊ニ對シ貸與

スルモノトス

○通 牒

經給第一二八號

昭和十七年七月二十一日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

特設救難船監督官ノ指揮官加俸ノ件通牒

特設艦船部隊令ニ依ル特設救難船ノ監督官ハ航海加俸支給上海軍給與令第五表備考第五號中「部隊ノ指揮官」ニ該當スルモノト了知相成度

○辭 令

北村 詮次郎

徵用中年額千九百參拾參圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス

海軍公報(部内限) 第四千四百四十八號 昭和十七年七月二十二日

七七七

1686

吳海軍建築部徵用員 北村詮次郎
 第二百海軍建築部ニ配屬ス(海軍省)

海軍少將	大杉 守一
海軍大佐	東郷 實
同	福吉 保夫
同	山内 秀夫
同	藤間 良
同	清宮 善高
同	大野 功
同	松田 源次郎
同	古田 中博
同	今泉 周逸
海軍機關少佐	金丸 實
海軍主計少佐	安部 織太郎
海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス	
海軍中佐	亀田 寛見
同	上岡 小彪
同	原田 耕作
同	大野 格
同	江坂 彌
同	福田 太郎

同	村井 貞敬
同	前田 岬
同	五十嵐 康彦
同	富岡 次郎
海軍少佐	日高 萬由
同	田中 嘉平治
同	古谷 清渡
同	富所 幸太郎
同	權平 正男
同	笹川 濤平
同	橋本 逸夫
同	田村 健太郎
同	福島 美彦
同	山路 一雄
同	里見 五郎
同	大橋 勝夫
同	笹田 兼雄
同	川村 久松
同	田岡 清
同	自見 仁一
同	金石 外次郎

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍大尉	同	同	同	同
小澤一郎	前田安彦	田邊清治	折笠重康	小山良三	石田捨雄	山元正二	森上信榮	尾野泰弘	魚野和清	瓜生鹿義	本名敏雄	丹羽武夫	大谷武夫	丹下謁基	中野信行	西山四郎	注連澤春夫	山田龍人	加藤實	阿部清一

同	同	同	同	同	海軍機關少佐	同	海軍機關中佐	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
小川好雄	黒田武光	中堀忠三	伊勢貞一	木村長助	堀山榮	迫田季春	高岡羊吾	萩原一男	番井一章	安元至誠	小林英一	元良勇	秋野資郎	杉田秀雄	鯉淵不二夫	新田善三郎	卜部章二	石川浩	田中一郎	高柳親光

(各通)

同 同

今井 猛雄
中村 正道
濱田 五郎
加藤 孝男
横尾 智
石原 功
真鍋 九一
栗林 護
高取 利雄
加藤 正明
阿部 雅之介
土性 壽
奥山 晨一
御園生 秀雄
塚本 勳
小川 糺
小町谷 光男
荒井 勝身
高橋 謙二
吉村 盛夫

同 同

海軍軍醫大尉

織内 平八
坪田 繁樹
宮山 倫次
岩淵 龍夫
米川 太郎
福島 哲翠
浦島 常郎
鎌田 正方
飯村 正
上原 梓
伊左次 賢三
平野 謙次郎
佐々木 宏
横澤 弥一郎
花輪 武男
藤森 聞一
大道 廣
松岡 春三
八代 正雄
郡嶋 恭介
大道 明

海軍公報(部内限) 第四千四百四十八號 昭和十七年七月二十二日

同 同

竹 黒 高 土 中 松 東 岡 角 入 長 松 丹 米 横 辻 小 竹 岡 新 北
 村 澤 村 橋 條 田 田 崎 田 江 内 尾 羽 田 山 林 上 本 福 林
 弘 龍 智 寛 是 三 千 義 義 弘 忠 登 進 桂 文 藤 清 八 藤 圭 榮 琢
 雄 明 寛 龍 雄 秋 男 和 弘 雄 進 三 雄 吉 郎 七 次 熊 男

同 同

厚 鹽 澄 小 岩 張 自 小 土 木 伊 松 野 宮 石 辻 佐 坂 高 楠 山
 井 見 田 野 谷 江 木 島 井 藤 東 村 口 嶋 塚 茂 藤 手 橋 山 根
 義 健 義 小 岩 張 自 小 土 木 伊 松 野 宮 石 辻 佐 坂 高 楠 山
 隆 之 道 野 谷 江 木 島 井 藤 東 村 口 嶋 塚 茂 藤 和 邦 八 雅 義
 隆 祐 道 六 三 啓 男 雄 悟 典 夫 央 之 樹 司 夫 夫 郎 和 雄

七八三

昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學

海軍教授	神藤 哲夫
同	橋本 萬平
同	原島 善衛
同	梶原 秀男
同	吉田 徳之助
同	大島 潔
同	舟羽 智夫
同	北澤 弥吉郎
同	山本 丈夫
同	本間 敏雄
同	横田 健一
同	古久保 末雄
同	中村 秋甫
同	大塚 肆郎
同	安達 肆郎
同	村田 穆
同	小林 正光
同	渡邊 哲雄
同	今井 壯一
同	中畑 公司

校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ命ス(註前同)

第一南遣艦隊司令部附ヲ命ス
臺灣總督府技手 渡邊 正一

(各通) 同 梅田 進
同 赤城 勘一

第二南遣艦隊司令部附ヲ命ス(以上註前同)
海軍少佐 藤本 五男

第一課兼第二課勤務ヲ命ス(註前海軍省軍務局)
(各通) 海軍機關中佐 君嶋 武彦
海軍主計少佐 稻村 覺

第二課勤務ヲ命ス(註前海軍省兵備局)
海軍主計中尉 齊藤 公正

水雷艇初雁ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(註前支官 海軍省經理局長)

第一海軍經理部香港支、岩松 悌二郎
部員海軍主計中尉

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス
海軍主計中佐 松岡 嘉一

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上註前同)

<p>(各通) 海軍少佐 三重野 武(201番艦) 海軍軍醫少佐 武藤 經世(同)</p> <p>第一〇〇一番艦審議委員ヲ命ス 海軍大尉 兼子 正 (各通) 海軍軍醫大尉 板津 清明</p> <p>第一〇〇一番艦審議委員ヲ免ス(以上皆海軍艦政本部)</p>	<p>○雜款</p>	<p>○旗艦變更 第三艦隊司令長官ハ七月二十日旗艦ヲ翔鶴ニ變更セリ</p>	<p>○郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度 横須賀郵便局氣付 ヲ〇〇 ヲ壹四七 (第二航空隊)</p>	<p>○殘務整理 第五航空戰隊司令部殘務整理事務所ヲ吳海兵團内ニ設置セリ 追テ郵便物發送先ハ 吳海兵團氣付 瑞鶴司令部殘務整理委員宛</p>
--	------------	---	--	--

海軍公報(部内限) 第四千四百四十八號 昭和十七年七月二十二日

七八五

1694